

子どもたちに 核兵器のない世界を

核兵器廃絶めざす
全教メールニュース

第42号 2010.7.16.

NPT再検討会議で「核兵器のない世界」実現へ奮闘したカバクテラン議長が世界大会にメッセージ

NPT再検討会議で議長を務め、核保有国を含めた最終文書の合意に奮闘したカバクテラン国連大使（フィリピン）から、原水爆禁止世界大会の成功を願う次のメッセージが届きました。

NPT再検討会議の議長として私は被爆者の皆さんとお会いし、また、5月2日にはダグ・ハマーショルド広場で、5月4日には国連総会場で、ほぼ700万の署名を受理しました。どうか、みなさんの優れた活動を続けてください。それはあなた方の大会が掲げる3つの目標（核戦争阻止、核兵器の禁止・廃絶、被爆者への支援と連帯の促進）の達成を促進し、私たちを核兵器のない世界へと導いてくれるものなのです。世界大会の成功を祈ります。

世界大会
で国際連
帯を！

世界大会で発言予定の国連、政府代表を紹介します（1）

ドゥアルテ国連上級代表（軍縮問題担当）

国連の軍縮部門の責任者。NPTニューヨーク行動で多大な協力をしてくれ、原水協など人々の行動を高く評価している。

イクラム・ヤーコブ国際原子力機関（IAEA）マレーシア代表理事

国連など国際政治の最前線で、核兵器禁止条約の実現を求める先頭に立ってきた。IAEA理事会議長の重責にある。

16日、全教・日高教の本部メンバーが6・9行動

広島の前爆投下から65年目を迎える8月6日まで3週間となった16日、



炎天下の市ヶ谷駅前で、全教・日高教執行部は、18人が参加して、「核兵器のない世界



を」の宣伝・署名にとりくみました。30分で200枚のチラシを配布し、13筆の署名が集まりました。

全教の杉浦副委員長が迫力の訴え

核兵器を抑止力と考える限り、決して核兵器はなくせません。相手より上回る核兵器を持つと果てしなく増やしてきました。しかし、いま世界の大きな流れは、力ではなく、話し合いで互いに理解しあって解決する道です。今年のNPT再検討会議の到達点は、核兵器廃絶に向かう歩みを確かなものにしました。これを具体的な計画にすることが今求められています。

まもなく原水爆禁止世界大会が始まります。世界と日本の核兵器廃絶を願う人々の声と運動に期待が集まっています。大会を成功させ、被爆国日本、非核三原則を持つ日本に相応しい役割を政府に求めていきましょう。